特集

【夏の風物詩】

one of the summer features

十ＶＡＮ祭

きいろいりぼん

「今年は十番祭りにこれを着て行ったら良いよ」父が大切そうに渡してくれたのは半纏でした。

麻布十番祭り、通称、“十番祭り”は、毎年８月の終わりに、私の地元である麻布十番の商店街一帯で行われる納涼まつりです。1968年に、『大名おどり』という盆踊りから、現在のような露店の立ち並ぶ納涼まつりになったと言われています。以前は金・土・日曜日の３日間開催していましたが、東日本大震災を受けて自粛し、開催を見送る年も経て、土・日曜日の２日間という形で復活しました。

東日本大震災後、内容もがらりと変化しました。以前は、商店街のお店と他の出店が入り混じっていましたが、復活してからは、商店街のお店のみの運営となりました。また、町おこし、村おこしを図ると共に、少しでも被災地の産業の復興に役立ちたいという想いから、『おらがくに自慢』という企画が始まりました。ここでは、東北地方と熊本県を始めとする全国の自治体が出店し、各地の美味しい名産品を味わうことが出来ます。

十番祭りは、昔は、こぢんまりとした“商店街のお祭り”でしたが、南北線や大江戸線が開通し、六本木ヒルズやミッドタウンが出来てから、沢山の方々が参加されるようになりました。人が多くなり、内容が変わっても、私にとっては、地元の友人や、幼い頃から知っている近所の人達や、馴染みのお店の人達に会えるあたたかい行事です。

半纏に袖を通してみると、やはり少し大きく、しかし、“父から譲られたもの”を感じられる心地の良いサイズでした。この半纏は、父がヴァンヂャケットの代表をしていた時に、ＶＡＮのファンでお祭り好きの方々と一緒に製作したものです。大紋にはＶＡＮを漢字にした“番”の文字を入れ、襟字には“アイビー”“仲間”を表す“蔦”“睦”が入れられています。

父のＶＡＮへの想いや、仲間との思い出が詰まった大切な半纏を身に纏い、今年も意気揚々、お祭りに繰り出したいと思います。

夏の風物詩

山本 結子

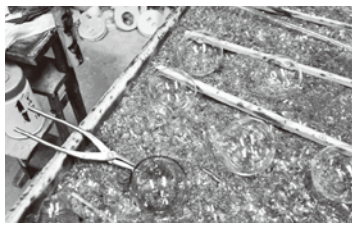
蝉しぐれ、夕立の雨音、遠雷、花火、風鈴・・・。私の夏は耳が主役です。中でも、風鈴の音色が好きです。繊細で澄んだあの音色が、夏の暑さをふと、忘れさせてくれる気がします。風鈴が鳴るのは、そこに風が吹き抜けた証し。風鈴の良さは、音色だけでなく、見えない風を体感させてくれるところにあります。日本人は昔から、日常の些かな「音」に耳を傾け、「風情」を感じてきたように思います。時間がゆっくり流れていたのでしょう。

以前、東京の下町、浅草で風鈴づくりを体験したことがあります。約1320度もの釜の中でガラスを溶かし、竿をつかって巻き取ります。竿を回しながら「ふぅ～」っと空気を入れ、最初に、口玉という、鳴り口を作るための小さな玉を作ります。空気を入れ過ぎて割れてしまったり、一定して竿を回し続けないとガラスが偏ってしまったりと、これが意外と難しいのです。さらに竿に針金を通し、吊るし糸を通す穴をあけたら、一気に空気を入れて膨らます。これが、風鈴の本体となります。

砂の上で冷ました後（右下写真）、石を使って口玉の部分を切り落とします。このときにできる、ギザギザした切り口の形によって、風鈴の微妙な音色の違いが生まれるのだそうです。そして、冷めたら絵付けをして完成です。

その工房は、「江戸風鈴」の発祥として名高く、江戸時代から伝わる、「宙吹き」という製法（金型や木型を使わず、空中で形を整える吹き方）で作られたガラス製の風鈴を指します。因みに、「江戸風鈴」は登録商標で、先代が昭和時代にそう名付け、代々その伝統が大切に守られてきたそうです。

そんな歴史ある工房の職人さんと共に作った、自分だけの風鈴の音色は、市販の風鈴では生み出せない、どこか温もりある涼しさを届けてくれるような気がしました。これが私の夏の風物詩、この夏も耳を澄ませます。



【夏の風物詩】

one of the summer features

キャンプ

デンリーダーK

息子がボーイスカウトに入隊し（現在、カブ隊）、私もボーイスカウトのお手伝いをするようになり、親子の週末はアウトドア中心になりつつあります。ボーイスカウト活動の中で子供たちが一番楽しみにしているのがキャンプ、特に、夏休みに３泊４日で行われる夏キャンプです。

ボーイスカウトのキャンプは、家族や友人と行くキャンプとは違った楽しさがあります。純粋に楽しいのはどちらかといえば後者のキャンプに決まっています。自分たちが好きなときに、好きなことを、好きなだけ楽しめるのですから。一方、ボーイスカウトのキャンプは、リーダーが決めたプログラムに沿って活動するため、好き勝手に遊ぶことはできません。

では、ボーイスカウトのキャンプの楽しさはどこにあるのかというと、組の仲間と一緒に過ごすことに尽きると思います。私たち親子が所属しているカブ隊は、15人前後の子供が３組に分かれており、１組あたり５人前後で構成されています。そして、常に組単位で行動をしていて、ご飯を食べるのも、寝るのも、ハイキングするのも、組の仲間で一緒です。例えば、ハイキングで歩き疲れた子に声を掛けて励ます子がいたり、肝試しで怖がっている子と手をつないであげる子がいたりします。また、キャンプファイヤーのときに披露するスタンツ（寸劇）の内容を一緒に考えて練習するといったこともします。そういったことを通じて、仲間との絆を深めるとともに、お互いに協力し合う大切さを学んでいきます。という解釈は、大人視線の話で、子供たちにとってみれば単純にたくさんの友達と遊べて楽しいくらいの気持ちだと思います。

それでも、親と離れて３泊４日を仲間と一緒に過ごすことで、子供たちはちょっぴり成長するようで、夏キャンプから帰ってくると子供たちの顔つきが変わります。親にとっては、我が子の成長こそが夏キャンプの楽しみです。

バーベキュー

S. T.

夏の風物詩といいますと、みなさまは何を想像するでしょうか。夏祭りや花火大会、海水浴などでしょうか。確かに、夏祭りや花火大会のポスターを町中で見かけると夏が来たって感じがします。

そんな中、私が一番夏を感じるものは、バーベキューをしている時です。夏祭りや花火大会、海水浴などには行かない年はあれど、バーベキューに関しては学生の頃から毎年欠かさず友人や同僚と楽しんできたので、そう感じるのかもしれません。

バーベキューには様々な楽しみ方があると思います。ある人は河川敷で、ある人は浜辺で、またある人は都心の整備された場所で。大人数で盛り上がるのも、少人数でゆったりするのも、時と場合によって楽しみ方はそれぞれです。そして、どんな場合であってもバーベキューは楽しいものです。個人的には、そこまで上流すぎない「広くもなく狭くもない川原」で、数人程度でゆっくりとした時間を過ごすのが特にお気に入りです。

場所ももちろん重要ですが、やはりバーベキューの主役といえば肉や魚、野菜などの食材です。みなさまはどのような食材を持って行きますでしょうか。

私は数年前からよく「焼き鳥」を自分で串打ちして持って行っています。バーベキューの花形（？）といえば牛肉だと思いますが、私自身はそれに肩を並べる存在だと思っています。ねぎま、せせり、ぼんじり、はつ、なんこつ、砂肝に皮。また、鶏肉に限らずアスパラ肉巻きやトマトベーコン巻き、うずらの卵など、好みの食材を串に打って焼くだけで、片手でつまんで手軽に楽しむことができます。

普段とはひと味違ったバーベキューにしたい！という方、ぜひ今年のバーベキューに焼き鳥はいかがでしょうか？